

通所介護施設共同送迎「ゴイッショ」について

【目的】

送迎業務を介護現場から切り離し、地域一体で効率的な運行を実現することで、送迎業務の負荷を減らし、人材不足の課題の解決と、持続的で、より質の高い介護サービスの実現へ寄与することをめざしています。

【今後の方向性】

一般社団法人やす地域共生社会推進協会が当該モデル事業の運営団体として引き続き取り組む予定です。

令和5年度の実証を通して得られた知見と事業に対するニーズを踏まえて、今後の通所介護施設送迎の共同化の社会実装に向けた展開を想定し、持続可能な事業モデルとなりうるか、収益シミュレーションを実施した結果、いくつかの一定条件をクリアすることで、最初の立ち上げ時は赤字での出発となりますが、徐々に参加事業所や利用者数を増やしながら、2年後には黒字化できると見込んでいます。

昨年度の実証実験の結果、課題点としてドライバーのスキル向上と乗車や運送の効率向上があがっていましたが、ドライバーのスキル向上については研修を8月～9月にかけて実施し、乗車や運送効率の向上については1カ所であったドライバーの出発地点を各施設に分散させることで対応していく予定です。

国土交通大臣認定運転者講習を受講したドライバーの雇用が必須ですので、広く呼びかけ確保するとともに、施設と委託契約を締結し、令和6年10月からの本格運行をめざします。

市はふるさと納税によるまちづくり基金を財源に、本格運行の立上げ支援として補助し、令和7年度末までに参加事業所を増やしながら補助金に頼らず運営できる体制を整えていく予定で進めています。



高齢者移動支援モデル事業「つれだし隊」について

【目的】

高齢化や核家族化の進行に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加しており、歩行困難などによる外出控えによる孤立が見込まれることから、高齢者の移動を支援することで外出機会を創出し、地域や社会とのつながりを生み出すことでフレイル（＝虚弱状態）の予防につなげることを目的としています。

【今後の方向性】

一般社団法人やす地域共生社会推進協会が結成した高齢者移動支援モデル事業「つれだし隊」についても、令和5年度の実証を通して得られた知見と事業に対するニーズを踏まえて、引き続き買い物付添支援を中心に継続して取り組む予定で、ドライバーやボランティアの募集など準備を進めています。

具体的な方法としては、道路運送法上の許可・登録を要しない形で、住民主体による家事等支援と一体的に実施することを検討しています。介護保険の要支援者等（※1）が利用できる介護予防・日常生活支援総合事業の補助制度を活用し、送迎を行う要支援者等の簡易プラン作成を利用要件として開始する予定です。

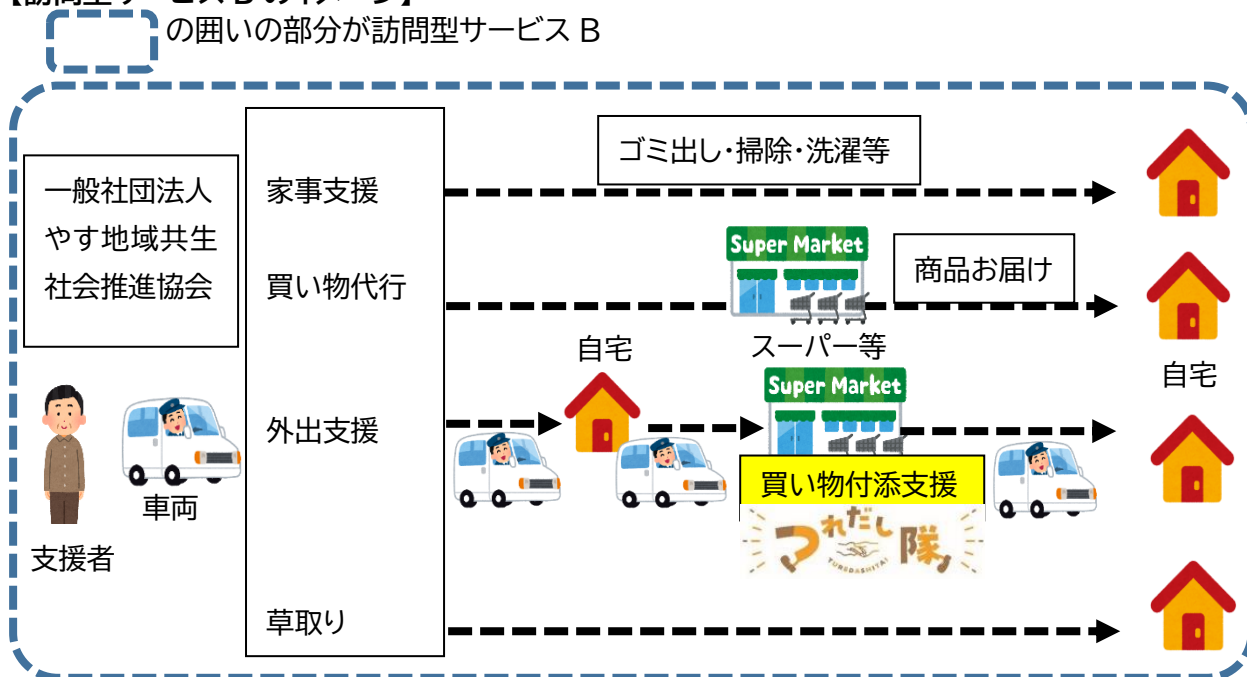
【実施事業】

- (1) 買い物付添支援・・・実施曜日や時間を決めて、ドライバーやボランティアが付添い、利用者の買い物をサポートします。
- (2) その他の生活支援・・・利用者の自宅に訪問し、掃除、買い物代行、草取り等、実施団体が考案する内容の生活支援を実施します。

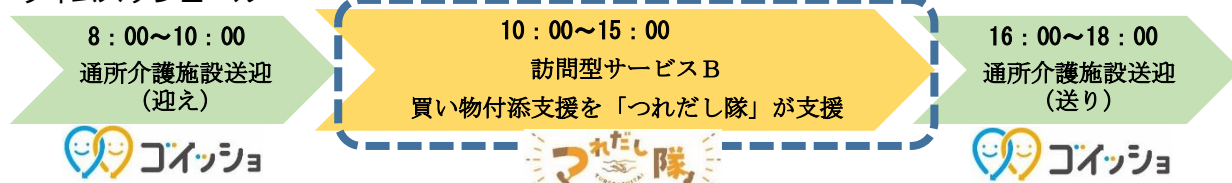
＊昨年度の実証実験の結果をもとに、買い物送迎と付添支援をセットで実施します。

＊介護予防・生活支援サービス事業の訪問型サービス B に位置付けられます。

【訪問型サービス B のイメージ】



タイムスケジュール



【対象者】

- ・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者・・・要支援者等(※1)
- ・通所介護施設共同送迎利用者

※1 要支援者等 … 要介護認定で、要支援1・2、又は基本チェックリストで事業対象者の方及び継続利用要介護者

【料金について】

- ・現在料金は未定ですが、住民主体の活動ですので、時間もしくは回数単位で生活援助の料金を運営団体が設定します。(市は間接経費について介護保険事業特別会計から補助金を交付します。)